

いわて銀河プラザ応援女子会

anecco・通信

[アネッコウラシム]

Vol. 29
海とかもめ号
2026



大船渡特集



銀河連邦
サンリオオオアマト共和国
PRキャラクター
おおふなトン



三陸名菓「かもめの玉子」のさいとう製菓勤務・佐藤徳政さん

震災で失った家族への想いと さいとう製菓への想い



大船渡市に本社を構える「かもめの玉子」で有名な、さいとう製菓。総務部企画課の佐藤徳政さんが同社に入社したのは2012年10月のことだ。「最初の仕事は会長の送迎係で、合間に通販の補助をしていました。会長と一緒に県内を回る中、様々な施設や店舗、各町の土地柄や空気を感じながら、三陸沿岸と内陸の違いや、それぞれの良さはどこにあるのだろうか」と常に頭を動かしていました。そして何より、会長の考えや姿勢に触れる貴重な時間でもありました。アドビのデザインソフト「イラストレーター」を使えたため、次第にポスターや商品POPを作成するように。その後、経験を積みながら、様々なコラボやスポンサーの切り盛り、同社ウェブサイトのリニューアルや商品写真撮影などのディレクションを経て、近年ではポケモンと岩手県の連携企画「プテラの玉子」や「かもめの玉子ミニ岩手県×イシツブテver.」などのヒット企画も担当してきた。

そんな佐藤さんの心にいつもあるのは「感動するため、させるため」という思いだ。「(東日本大震災で)家族3人、流されているんです。母親と祖母と、10歳年下の妹です。妹が大学進学で上京してから、震災が来てしまいま

した。当時、僕は故郷の陸前高田市を出て東京で働いていたので、たまに妹と遊んでいたんですよ。母親も妹も美人でかわいく自慢でした。妹が大学に入ってまだ1年にも満たない春休み、忘れもしない2月24日のこと。都内のお好み焼き屋で2人でごはんを食べて、別れ際に『最近、おしゃれなカフェ見つけたから一緒に行こうね』と話したのが最後の会話になってしまった。実は僕には妹とかなえたい夢があったんですが、妹はこの世にはもういません。会ったり、話したりはできなくなってしまいました」

震災が起きた3月11日、佐藤さんは職場のテレビで被災の様子を目の当たりにした。「気仙沼も大船渡も大変なことになっていました。でも、高田の映像が流れないから、大丈夫かな、と。会社を早退して、都内の兄貴の家で、夜中までテレビを見ていました。朝5時くらいになってようやく高田の映像が映った。小高い丘にある高田一中から海と街を映した映像でした。そのすぐ近くにあった実家が波で流されているのが見えてしまい、『終わった』と。なぜそれまで映像が映らなかったかという、被害が壊滅的で、現地に入れる状態ではなかったのでしょうか。兄貴も起きてきて、2人で目を合わせましたが何も話し

ませんでしたね。感情が1周どころか100周くらいして、冷静というか、普通というか。後も今も先もない、ただその部屋にいただけ。電波がないので電話も通じませんでした。親父は、海を見に行つて波にのまれたんじゃないか、母親も家で逃げ遅れたんじゃないか、と。希望は持ちたくありませんでした。希望が打ち砕かれたとき、自分の心が死ぬ気がしなかった。数日後、地元の先輩から『お前の親父を見たぞ』という情報が入りました。父親からはメールも連絡もなかったのですが、10日後くらいになんとか現地に行き、父親の無事を確認しました」「そして、実家のあった辺りに行って家を探してみましたが、がれきだらけでもちろん見つからなくて。次の日、気になってもう一回行つたんです。その時『あれ？俺ちんに似てるな……』と思う建物がありました。場所がもとの場所から400mくらい離れていて、近づくにつれてドキドキしましたが、まさに俺ちんの2階でした。それから1カ月後に周りのがれきを撤去して、最後に残った家を壊すことになった。そこから3人の遺体が見つかりました。玄関を出るところだったんだと思います。妹のリュックからは避難用具のようなものが見つかりました。3人一緒に見つかった、一緒に火葬できました。葬式というより結婚式の感覚に近かったですよ。仏事というより、祝い事。見つかった成仏させてあげられる、といううれしさ。喜びのほう大きいんですよ。考えてもみてください。1人見つからなかったらどうでしょう。それはつらいですよ。何を言っているんだと思わ

れるかもしれませんが、僕はそう感じました」「一般的な『残念』とか『死んで悲しい』とか、そう言っている場合じゃないんですよ。あの3人は『やり切つて死んだ』という認識です。いろいろな人に言われました。『ご家族の分まで頑張ってください』って。『すみません、あの、私は家族はやり切つて死んだと思うようにしています。俺はやることをやってないから生きている「ぼんくら」なので』と答えていました」「今は、『その時、一番重要なことをやる』というスタンスです。周囲からは時折、なぜそこまで頑張るのかと言われることがあると言う。「死んでしまった家族からの願いで動かされているのかもしれないですね。そのあと眩くようにしみじみと「昔から母親から褒められるのがうれしくて」。佐藤さんが20代、仕事になかなか身が入っていない時期に、母親から言われた言葉があるそう。「あなたが生き生きしていることが、一番の幸せだよ」。その言葉がまだ胸の奥に響いていると言う。同じ頃、父親に言われた「信念が大事だ」という言葉も忘れられない。そして、その想いをさいとう製菓へ向け、新たな取り組みを今年3月から始めるのだと意気込んでいる。その名は【#かもめの玉手箱物語】。「東北時間。まるで蒼玉」というキャッチフレーズを添えて展開していくそう。取材は終盤を迎え、佐藤さんは言葉を紡ぐ。「時間はいつも儂く過ぎ去ってしまうもの。生まれてから今までの想いを詰め込んで、三陸から東北の空を羽ばたいていきます。かもめのように」



#かもめの玉手箱物語

Kamome no Tamago Tebako



大規模な火災で5億円分のあわびが死滅 それでも負けない!

2025年2月26日、大船渡市の山林を襲った大火事。鎮火まで41日かかり、約3370ヘクタールが燃えた。その広さは東京ドーム720個分に相当する。元正榮北日本水産、取締役 営業部長 古川翔太さんは当時を振り返る。「着火約1時間後、火は当社近くの山林にも広がりました。それから12日間ほど、綾里地区への立ち入りは禁止されました」

同社の被害は2つ。まずは在庫としてのアワビが、火災の影響による停電で死んでしまったこと。約250万個、額にして約5億円の損害を受けた。2つ目は、送水管が焼けてしまい、修復に約3000万円が必要になっていることだ。アワビは成長に2～3年かかるため、それまでの間、商品を製造できない。しかし、古川さんの表情は明るい。同社のアワビ養殖を復活させるためのクラウドファンディングを行ったり、福島県南相馬市のirizeの力を借りて、死んだアワビの貝殻を割って入れたガラスアクセサリーを復興応援商品として販売したりと、休む間もなく動き続けている。「大船渡という、海と山に囲まれた地の利を生かし、これからもおいしいアワビを生産していきたいです」

同社の強みは、陸上完全養殖という技術だ。卵から出荷できるアワビに育てるまでの全過程を



陸上で行う。古川さんの祖父(漁師をしていた)が1986年に起業。2006年に父親が社長に就任。11年の東日本大震災でそれまで使っていた工場がすべて流され、約15億円の被害を受けた。14年に新工場を建設するものの、今度は新型コロナウイルスの感染が始まった。その影響でBtoBで販売していたアワビが余ったのをきっかけに、「三陸翡翠あわび」としてブランド化し、BtoC販売を開始。売上げが伸びてきたタイミングでの火災だった。

現在、同社が育てたアワビは火災前に製造した缶詰で味わえる。「箱入りあわび」のバターソテー風と白ワイン煮味。「あわびの宝石箱」のバター煮withマッシュルーム、白ワイン煮withヤングコーン、メキシコ風煮withひよこ豆。この機会にぜひ味わってみてほしい。



在庫の一部を、ふるさと納税でも販売している



「岩手のワカメは日本一」質で勝負



戻すとツツツ肉厚のワカメに!▶

コタニに勤務する小谷直己さん(右下の写真)は言う。「東京に拠点を置く当社は、曾祖父が戦後に創業した会社が始まりです。質の高い岩手県の高菜が人気になったことから、1977年に大船渡に工場を構え、そのときからずっと岩手の高菜だけを扱っています。三陸全体で採れる高菜を扱う会社は多くても、岩手産に絞っている会社は珍しいと思います。岩手県は品質管理が厳しく、海水も適温に近く、親潮に乗った栄養価の影響もあって、三陸の中でも品質が高いことが業界内でも高く評価されています。ぜひその価値の高さを改めて知っていただきたいと思います」

2025年2月の山林火災では在庫を管理する冷蔵庫、冷凍庫のあるプレハブの壁が焼けてしまっ

た。「修繕で乗り切れるのか、全面的な改修が必要なのかの見通しがまだ立っておらず不安です」と話す。

高菜の様々な商品を取り扱う同社の今回のイチオシは、5商品シリーズ。乾燥ワカメ、海藻ミックス、乾燥させた生メカブ、手作業で裂いた茎ワカメ、細く切ったコンブだ。あまり市場には出回っていないので、ぜひ手に取ってみてほしい。



秋のanecco.ピクニック初開催

いわて銀河プラザ近くの公園で開催しています。ぜひ遊びにいらしてくださいね!

2025年11月、初めて秋の anecco. ピクニックを開催しました。集合前にいわて銀河プラザで、各々が好きな物やお勧めしたい物を買って持ち寄り、のんびり食ったり飲んだりしながら、岩手トークを楽しむ恒例イベントです。一緒に買い物をしたメンバーが手にしたのは1500mlの「岩手の純情わいん」。「それ飲み切れる?」と、つい聞いてしまいましたが、「大丈夫でしょう」と購入。こちらのワインはスクリュージャップ(手で簡単に開く)でしたが、後から来たメンバーは、「どうしても野田村の山葡萄ワインが飲みたいのでコルク抜きを買ってきます!」と、飲みたい気持ちを爆発させていました。お弁当系では、釜石逸品フェアで売られていた「釜石ジオ弁当」が一番人気でした。持ち寄る物もバラエティに富んでいるので、初めて食べる物もあり、気に入った商品は帰りにいわて銀河プラザに寄って買えるのも、あねピクの楽しみの一つです。私は初めて食べた「小岩井レーズンアンドバター」にすっかりハマり、冷蔵庫に常備するようになりました。次回は春に開催する予定です! 皆様のご参加をお待ちしております。もちろんお酒苦手な方も大歓迎です。(たべっち)



わたしの
“岩手との vol.2
新しいツナガリ方”

岩手沿岸を堪能♪
「みちのく潮風トレイル旅」の巻

及川さんが岩手への旅を思い立ったのは2025年初頭。JR東日本の新幹線内で目にした機関誌『トランヴェール』で、みちのく潮風トレイルの記事を読み、「面白そう!」と思ったのが始まりでした。「写真から景色の美しさや爽やかな雰囲気伝わってきました。同じ頃、知人の岩手県推しの女性が、潮風トレイルの旅についてSNSに投稿しているのを見て、『私も行かなくちゃ!』と! 登山好きの夫に『行く?』と聞いたら、二つ返事で『行く!』と答えてくれました。全長1000kmのうち、今回は浄土ヶ浜の景色をゴールに据えて、久慈から出発することに。

10月10日(金)17時に、新幹線で二戸駅に到着。バスで久慈に向かい、久慈グランドホテルに宿泊。11日(土)はホテルに荷物を置き、朝7時からトレイルを開始。小袖海岸~ホテルの道を往復約20km、約5時間歩きました。「リアス式海岸が美しく、奇岩や滝なども楽しめました!」。ホテルで昼食を取り、三陸鉄道で普代村に移動して、国民宿舎くろさき荘に宿泊。「翌日は黒崎の灯台から歩く予定でしたが、残念ながら雨模様。旅



写真はすべて及川さんや夫さんが撮影したもの。「途中、息が上がるほどの道もありましたが、感動的な景色を目にして、疲れも一瞬で吹き飛びました」

「東北大好き♡」

元ポーラ社長・及川美紀さん

今回の取材相手は、元ポーラ社長の及川美紀さん。「宮城県石巻市出身の三陸育ちですが、岩手の沿岸はちゃんと見たことがなくて!」。東北愛に溢れる及川さんの旅レポートです。

程を変更し、鉄道で八戸に行って、平目濱け弁を食べて帰ってきました。そのまま三鉄で田野畑村のホテル羅賀荘へ。「眺めがよく、食事もおいしかった〜♡」。三鉄で宮古に向かい、姉吉キャンプ場までバスで移動。浄土ヶ浜まで歩き、浄土ヶ浜パークホテルで旅をしめくったそう。最終日は朝9時前に宮古を出発し、バスで盛岡へ。盛楼閣で冷麺に舌鼓を打ち、石割桜や城跡、宮沢賢治ゆかりの光原社、南部鉄器の釜定を回って、15時の新幹線に飛び乗りました。「みちのく潮風トレイルは本当に最高! 今回行けなかった普代村のコースもいつか歩きたいです。それにしても海外客が多くて驚きました」



経営者目線ではこんな辛口の指摘もありました。「トレイル中、道の分岐点で、左右のどちらに行けばいいのか分からなくて迷うことがありました。かゆいところに手が届く都会のサービスに慣れている私は、コーヒーを買ったときに無言でコーヒーを手渡されたり、観光地のお店の人に『バス来ますかね?』と聞いたら、『知らない』と言われたりしたのがちょっと残念。私も東北出身なので、朴訥としたコミュニケーションも大好きですが、観光業や接客業はこれからの日本、特に地方にはとても大事です。笑顔や温かさ、そして旅人が求める詳しい旅情報を、積極的に提供してもらえると嬉しい! それが岩手の魅力アップに必ずつながると思います!!」



NHK 朝の連続テレビ小説「あまちゃん」で知名度が急上昇した方言「じえじえじえ」発祥の地石碑。久慈市小袖にて

aneco. メンバー「たくっち」の 大船渡の魅力~「海も人も」の巻~



たくっちプロフィール

岩手県出身。SNSで話題となった4コマ漫画「ユメミルゆめみとまるいともち」を飛鳥新社から2016年に出版。現在、SNS・WEBメディアを中心に「ささきさきU」として活動中。



NORTH COFFEE TOKYO

[大塚] カフェ・バー

飾られた南部鉄器のオブジェに思わず「めんこい～」と言ってしまふ素敵なカフェ。オーナーの佐々木祐太さんは「いわてブルージャズ盛岡」の元リーガー。引退後の2024年3月にこの店をオープン。テーブルやベンチには南部赤松が使われ、温かみのあるフォルムが心地いい。時折通過する都電を眺められ、都心とは思えないほどゆったりとした時間を過ごせる。選手時代に「自然に近い場所で生活でき、人も温かい」という、地元の人にとっては当たり前に見えるような岩手県の魅力に気づき、「お世話になった岩手へ恩返しをしたい」という思いで、岩手をコンセプトにしたカフェを開いた。

元サッカー選手の経歴を活かし、「口に入るものはよいものを」という信念のもと、お湯を沸かす足分を一緒に摂取できる南部鉄瓶を使って八幡平市のNELCAFE監修オリジナルブレンドコーヒーを提供。このコーヒー豆を海外で活躍する日本代表選手が所属するチームへ提供したこともあるとか。お土産用のドリッ

DATA 東京都豊島区北大塚2-26-7 103 ☎070-3345-3134
月10:00～15:00/火～金10:00～22:00 or 23:00/土日8:00～21:00 or 23:00

いわて銀河プラザで岩手の魅力に触れたあなたと分かち合いたい、ステキなお店情報をお届けします。

プーヒーのパッケージも岩手ならではの絵がかわいく、ギフトにぴったり。小久慈焼きのカップ・ソーサーも素敵だ。小岩井牛乳や岩泉ヨーグルト、のだ塩、ひとめぼれなど、岩手の食材を使用したランチやスイーツも楽しめる。店主イチオシメニューはお母様（元パティシエ）特製のおからショコラ。岩手は豆腐消費量全国でも上位であることから、このメニューを考案。自由由来の優しい味で、ご年配のお客さんにも人気だ。モーニング限定でおからパンも食べられる。夜は国産牛料理メインの肉バルに様変わりし、赤武酒造、あさ開、ヘアレンビールなどの岩手のお酒も楽しめる。壁にプロジェクターでサッカーの試合が映し出され、おしゃれなスポーツバーの雰囲気。不定期でギャラリー会場として利用されることもあり、「もっと岩手の人たちとコラボしていきたい」とのこと。「まだまだ岩手の知らないことがたくさんあるので、岩手出身の方はぜひ、声をかけてほしい」と笑顔を見せてくれた。（きみっち）



店内に飾られていた「いわてブルージャズ盛岡」公式マスコット「キヅール」（左）と、ドリッポウヒーのパッケージイラスト



私たちが aneco. です

aneco. (アネッコ)とは、いわて銀河プラザを応援する女子会です。「アネッコ」に込められた意味は①若い女性を意味する岩手の方言「あねっこ」。②岩手の魅力がより多くの人の心に「根づく」という思いの2つ。メンバーは現在、約25人。全員が岩手県出身、東京近郊在住です。様々な長所を持つアネッコが、いわて銀河プラザを盛り上げる企画をボランティアで考案・実施しています！

X & Instagram @iwate_aneco facebook www.facebook.com/iwate.aneco

今号「海とかもめ号」の意味は？

大船渡といえば、海と山に囲まれた自然豊かな土地。昨年5月に、aneco. メンバーと共に家族で訪れ、碇石海岸で日が暮れるまで遊びました。もちろん海産物もめちゃくちゃおいしいです。皆さんもぜひ、大船渡の海とかもめを眺めながら、豊かな時間を過ごしてみてください！

編集 / aneco. 通信編集部 スタッフ/きみっち、たくっち、たべっち、まいっち(執筆・編集)、みおっち(デザイン)、あらたっち、くらげっち (写真) 協力/いわて銀河プラザ、岩手県東京事務所 aneco. 通信 vol.29 2026 海とかもめ号 2026年3月7日発行 無断転載を禁止致します。



岩手の特産品や観光案内情報が満載！



〒104-0061
東京都中央区銀座5-15-1
南海東京ビル1階
営業時間 10時30分～19時
毎月末日の営業は17時まで
TEL 03 3524 8282
www.iwate-ginpla.net